32. 糖尿病性網膜症に対する高気圧酸素療法

山口卓朗　百瀬　皓
（財団法人臨床眼科研究所）

【目的】糖尿病性網膜症に対し，高気圧酸素療法を施行し，その臨床的変化を検討した。

【方法】糖尿病性網膜症患者28人55眼について，高気圧酸素療法及び網膜光凝固術を施行しその臨床的経過を検討した。

【結果】高気圧酸素療法施行前視力より施行後視力に平均2段階の改善，眼底所見の改善，蛍光眼底所見の改善を見た。

【結論】糖尿病性網膜症に対し，現在の治療法としては，食事療法，薬物療法，網膜光凝固療法などがある。更に現在では，高気圧酸素療法が取り入れられ始めている。微小循環障害の組織に対する血液酸素運搬量増加と，網膜血管収縮による血管外漏出減少により視力，眼底所見に効果があり，今後の糖尿病性網膜症の有力な治療法の一つとして活用されてゆくと考えられる。

33. 突発性難聴に対する高気圧酸素療法の検討

柳田則之[*1)]　高橋英世[*2)]
（[*1)]名古屋大学医学部耳鼻咽喉科
[*2)]　同　附属病院高気圧治療部）

突発性難聴の治療の一つに，私共は，昭和47年高気圧酸素療法（HBO）を導入したが，その後，多くの施設において行われ，その成績についても報告されてきた。

本学会でも，第21回総会（昭和61年）のシンポジウムにおいて，その適応と限界について検討されたが，今回私共は，数多くの自験例からHBOの再検討を行った。

【対象・方法】出来るだけ同一の条件で治療の検討をするため，発症後2週間以内に来院し，聴力が固定するまで経過観察でき，名大大型計算機センターに入力されている症例に限定した。

対象は，昭和47年より平成2年12月までの19年間の一側性突発性難聴1313例，両側同時性突発性難聴11例の1335耳である。

これら殆どすべての症例は併用療法を行っており，ビタミンB群，ATP(C_0Q_{10})，血管拡張剤の3つは，大部分の症例に使用しており，この治療を基本治療としてHBOと比較検討した。

HBOを施行したものは428例である。

【成績・総括】聴力の程度，病日を区分して出来るだけ同一条件として，基本治療，Steroid治療，HBOについて検討した結果，HBOはscale outもしくはそれに近い高度の難聴症例で5～7病日を過ぎても，他の治療で回復を認め難いものに，特に適応となる。

治療期間は発症後1ヵ月が限度であると考える。

発症後1～4病日の極く初期には，まず他の治療を試みてよいかと考える。